



目 次

卷頭言	1
センターから	2
キャンパス情報	
－各学部から－	2
聞いてほしい私の意見	
－前学期を終えて思うこと－	6
Voice	
－教養科目的楽しみ方－	7
教養教育古今東西	8
(平成18年10月発行)	

教育の質とは

理学部長 坂田文彦

近年、教育の品質保証の動きが全国の大学で進行しています。教育の質が保証され、個別教員に依存しない均質な教育が提供されることには、教育を受ける側には魅力的に聞こえるでしょう。教育プロセスをマニュアル化し、どの様な学生にも一定レベルの教育成果が保証されるなら、高い品質の教育を受けたいとの期待が産まれるからです。私はこのような試みに対して今日まで積極的に理解を示してきました。教員が教育改善に取り組み、分かり易い講義や、学生の理解を助ける為の多様な工夫を行い、教育に情熱を傾けることは、素晴らしいことだと思うからです。

しかし一方、このような動きが行き過ぎる事に私は危惧を感じています。それはマニュアル化が可能な教育は教育全体のごく一部で、また大学教員の教育に関する資質までを一定の尺度で測り、点検評価の対象とすることは、ともすれば誤った方向へ教育を導いていくと私は考えるからです。最近の教育点検評価の議論の中に、"人"の要素が抜け落ちていると感じているのは私だけでしょうか。"人を育てる"という課題は、長い歴史の中で深められてきた問題であり、教育は人類の文化的基盤の最も重要なものです。文化を継承し、文化を深めていくのは、そこに"人"がいるからであり、文化を育てるには、均質なマニュアルでは創れない個性的な"人"が重要な役割を果たすと私は考えています。大学教育では運転免許を与える自動車学校のようなマニュアル化された教育のみでなく、個性豊かな人材を育てるマニュアル化されない教育が重要で、個々の学生に見合った教育を行えてこそ、"高い質の教育"であると考えるのは私だけではないと思っています。

新センター長就任

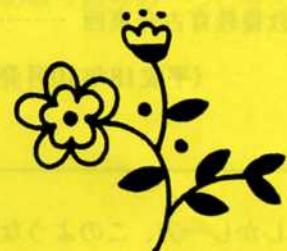
大学教育センター長 森野浩

私はこの9月からセンター長となりました。よろしく。4月から発足した大学教育センターには、従来の教養教育の企画や運営だけでなく、大学の自己点検評価や学生さんに対する様々な支援などにも係わっていくことが要求されています。

人間はだれも、「社会のよき一員」として独立するためにはいくつかの閑門を通過することが求められます。私の知るすべての生物もまた何らかの形でその生活史の段階で、厳しい時期を過ごして次の発育段階に到達し、成熟するしくみになっています。ザリガニの脱皮成長はその典型例です。勿論、ヒトとザリガニは同じだといっているわけではありません。ザリガニは単独で脱皮し、閑門を通過しなければなりませんが、人間の場合は仲間同士、助け合うのが普通です。諸君の閑門通過の手伝いを様々なかたちで充実させていくことも、学生支援の一環として今後行うべき大教センターの重要な役割の一つです。長い夏休みも終わり、後学期が始まりました。今、小さな閑門通過中といえるでしょう。後期の履修申告は問題がありませんか。疑問点などは担任の先生や窓口の係りの人に確認してください。そのなかで、支援体制の不十分な点も補強して

いくつなります。

さて、諸君は夏休みをどのように過ごしましたか。私は大学1年のときは短い文学書を文庫本で読みました。ある本に、教養時代はとにかく本を読め、と書いてあったからでした。目的の冊数を決め、乱読しました。その代わり、本の内容はほとんど理解できず、頭にも残りませんでした。それでも、目的の一端をやり遂げたことは事実です。また、自分は長い本をじっくり読むのは苦手で、気の多い性格らしいことも学んだような気がしています。このことを通して、自分自身の性向を知ることはできました。大学の支援のしくみを利用しながら、同時に様々な機会を通して自分を知り、ゆっくりと自立・自律を目指していただきたいとも思います。



キャンパス情報 -各学部から-

人文学部から

教育力と勉学力

人文学部教務委員長 鈴木 敦

人文学部では、今春の学部改組の一環として、教育力向上に向けた様々な取り組みが進められています。具体的には

1：四年一貫の少人数教育体制の整備・強化：主題別ゼミナール（1年）→基礎演習（2年）→専門演習

(3・4年)と繋がる一連の少人数授業（ゼミナール）が展開します。これらの授業を担当する教員は学生担任を兼ねていますから、授業の履修や学生生活について、学生の相談相手となります。

2：コース制度と履修モデル：科目履修を大幅に自由化する一方、希望する進路の実現に向けて円滑な勉学が促進されるように学習するためのモデルを示しました。

3：授業の点検・評価：学期末に科目毎の授業アンケートを実施し、担当教員に結果を提示して改善を求めています。

4: 卒業後の進路の分析及び卒業生や就職先への調査:
進路状況報告書の分析・卒業生へのアンケート調査・
就職先への聞き取り調査等を行い、今後の教育の改善に
反映させて行く予定です。

5: FD研修会: 学内外の講師に委嘱して教員に対する
授業改善の啓発活動(FD、ファカルティ・ディベ
ロップメント)を行っています。

等が挙げられます。是非、学生諸君からも要望を寄せ
て戴きたいと思います。

一方で忘れないで欲しいことは、「大学での勉強の
根本は、自分自身の努力」ということです。大学が提
供する援助手段を有効に活用しつつ、しかもそれに頼
り切ることなく、自らの価値観で「夢の設計図」を描
き、その実現に向けて自発的に勉学に取り組む姿勢を
堅持して行って欲しいと思います。



教育学部から

教育学部教務委員長 生 越 達

教育学部では、現職の小中学校、養護学校、高等学校の先生がたも学んでいます。そのなかには、3ヶ月間（前期と後期）ないしは6ヶ月間大学に通い、授業を聴き、研究をまとめる先生方もいらっしゃいます。私たちは、そうした先生がたを内地留学生とか委託生とか呼んでいます。

ここ2年ばかり、教務委員長という仕事をしている関係で、内地留学の先生がたを迎える開講式に出席しています。50人ほどの先生が集まった部屋に入っていくのですが、まずは圧倒されてしまいます。自分がいてはいけないところにいるように感じるのです。私自身は、子どものころ、あまり学校が好きではなかったのですが、先生がたから発せられる雰囲気に押しつぶされそうになるのです。

教師は外から見てもすぐに教師であることがわかると言われることがありますが、たしかに集団できちんと座っている先生がたからは独特のオーラが発せられているように思います。教師が専門職であることが雰囲気として現れているといつていいのではないでしょうか。教師は教師という仕事をとおして教師らしくなっていくのです。教師は教師にならなければならないということでしょう。だがいっぽうで、わたしの感じた堅苦しさをどのように理解したらよいのでしょうか。実は、内地留学の先生がたとは再び閉校式でお会いすることになります。同じ先生がたと、三ヶ月後にふたたび、お会いするわけです。閉校式でも、開講式のときと同様に、先生方の集まった部屋にはいっていくのですが、そのときの雰囲気は開講式のときとはまったく違っています。開講式のときのような重々しさは薄れ、軽やかな雰囲気を感じます。そして私はほっとします。先生がたは大学生活を送られるなかで、少しだけかもしれません、教師としての自分から自由になったのでしょうか。

大学とはそういうところなのだと思います。もちろん教育を学ぶこと、深く追求することは大切です。で

もそれと同時に、様々な学びや経験のなかで、広く自由にものを考えることができるようになっておくことも大切なのではないかと思います。

理学部から

理学部教学委員長 井 村 久 則

長年の懸案であった理学部B, C棟の大改修が行われています。工事期間は平成18年9月から平成19年3月の予定です。この間、理学部C棟の教室が使えないことから、後期の授業の一部は共通教育棟と教育学部の教室を借りて行うことになります。また、いつも大勢の学生で賑わっていたC棟1階の学生室もしばらくは使えませが、K棟1階の自習室やラウンジはこれまでどおりに利用できます。ただし、スペースは限られますので譲り合いの精神で、効率よく利用するようお願いします。

平成19年4月からは、B, C棟も平成14年に改修されたA棟のように新築同様に生まれ変わります。また、コンピュータが備え付けられた学習室や学生実験室などが新たに設けられます。学生の皆さんのが自由に使えるコンピュータが大幅に増える予定です。これらは全学共用ですから、理学部以外の学生さんにとっても水戸キャンパスでの学習環境が格段によくなるものと期待しています。かつてオープンキャンパスで訪れた高校生から、毎回のように"建物が怖い"とアンケートに書かれたこともやがて笑い話になることでしょう。

理学部では複合分野からなる旧3学科体制から1学科6コース制に移行してまもなく2年になります。高校の教科に対応する5コースと3つの学際研究分野を含む1コースからなっており、より基礎教育を重視した分かりやすいカリキュラムと教育内容の充実を目指し改革に取り組んでいます。理学部版詳細シラバスもその一つで、毎回の授業で何を理解し、何を身につけてほしいのかが詳しく書かれており、教員と学生の皆さんのが授業の目標あるいは目的を共有するための工夫です。皆さんの関心の高い成績評価についても詳しく書かれていますので、是非一度、理学部ホームページ

をご覧ください。

以上のように学習のハード・ソフトの環境が整います。"さあ、あとは皆さんのが目的を持って積極的に授業に参加するだけです。

工学部から

工学部教務委員長 沼 尾 達 弥

大学に入学して半期（前期）が過ぎ、この間の学生生活を皆さんはどう様に過ごされたのでしょうか。また、この半期を振り返って、皆さんはどういう思いをお持ちでしょうか。前期までは、大学の生活に戸惑うことも多かったと思います。その為、周りの友達の様子を見ながら、それに合わせて過ごした方も多いのではないかと思います。

更に、これから後期に向かうことになります。これからの半期の生活をどの様に過ごそうと考えていますでしょうか。今は大学生活にも慣れて、すこし余裕を持って、自分の考えで生活できているのではないでしょうか。

この時期に、一度、前の半年間を振り返り、次の半年の目標や意味を考える機会を自ら意識して持っていただきたいと思います。

入学前に思い描いていたことと、実際とのギャップはありますか？ また、やりたいと思っていたことが実現できているでしょうか？ 更には、それは自分の行為や努力とどう関わっているのでしょうか？

答は人各々個性があるように様々であり、正解は一つではなくと思いますが、過去の反省を次の活動へ生かすことは非常に重要なと思います。

翻って、我々工学部の教員自身も、皆様との関わりにおいて、同様な問いかけに対する答を求められています。「JABEE認証」ということを聞かれた方も多いとは思いますが、それも、同様な問いかけに答を求めるものの一つです。

この制度は、学生の皆さんも含めた私たち大学の全活動に対して、過去への点検と反省を基に、次の計画を立てて実行することの繰返しを要求する「活動」そ

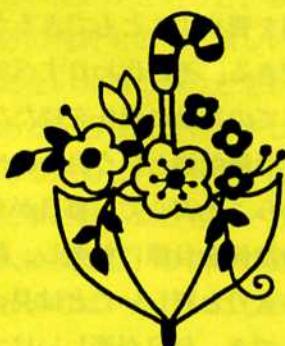
のものと言ってもよいものです。

更に、「目標」を実現するための「活動」ですので、目標が不可欠です。皆さんは、大学生活での目標を持っているのでしょうか。まだ漠然としているのであれば、来年4月までにはこれをしようと言うことでも良いと思います。是非、積極的な何らかの目的を持っていただきたいと思います。それによって、何をすべきかが具体的になってくるでしょう。

工学部でも、全学科共通の目的に掲げています。既に分かっている方もいると思いますが、工学部のホームページに掲載されていますので是非一読ください。

皆さん個人の目標と比較してみて、適切な内容になっているでしょうか？ また、この目標に対する教員の活動は十分でしょうか？

大学は、「教職員」と「学生」で成り立っています。教員から皆さんへ指導や要求をすることもありますが、皆さんの思いも伝えてください。相互のコミュニケーションにより、大学をより良い方向に変えていくものと信じております。



農学部から

どれだけたくさんの友達を作るか

農学部教務委員長 後藤哲雄

10月を迎えると後学期の講義が始まりました。2ヶ月に及ぶ夏休みの間に多くの体験をされたことと思いますし、大いにリフレッシュできたと思います。

では、どれだけ「頭」を使ったでしょうか。どれだけ新しい友達が出来たでしょうか。夏期英会話スクールに参加したとか、長編小説を読みましたとか、普段出来ないことを少しは達成されたのでしょうか。他大学の学生や社会人の人と仲良くなれたでしょうか。「ゼンゼン」というあなた。今からでも遅くありません。毎日活字に触れてください。身近な学友を新たな目で眺めてください。

私は、大学生活において勉強はとても大切で、それを怠ってはいけないと思いますが、その一方で大学時代にしか出来ないことがあると考えています。特に総合大学である茨城大学において、他学部の仲間を作ることはこれから的人生に大きくて、豊かな実りをもたらすと思います。もちろん、同じ学部の同じ学科の中に友達を作ることはいうまでもありません。しかし、長い人生では様々な局面に遭遇し、大きな壁にもぶつかる事でしょう。そんなとき、実は「大学時代の」友達ほどありがたいものはないのです。しかも学部が違っていても、おそらく就職する職種が違っているでしょうから愚痴っても問題ないわけです。むしろ職種が違うから、客観的に相談できることがあります。悩みは人に話すと半分になる、といわれます。でも、話す相手を間違えると3倍にも4倍にも悩みが増すことになります。今を活きつつ、将来も見据えておく。そういう打算的考え方を意識する必要はありません。多様な考え方、違った視点からものを見る、という新鮮な驚きを友達は与えてくれるはずです。学部が違えばなおさらです。そして、出来た友達とは努力して長く付き合うようにしていくこと、これは相手を大切にすることと同義です。私の学生時代は30

年も前に終わりましたが、今でも何人かの友達とは会っています。数年に一度、時には20年ぶり、ということもあります。毎年たった1枚の年賀状だけで続いていた関係が、会った瞬間に学生時代にタイムスリップします。それが堪らなくて、できるだけ同窓会には出かけています。学生時代にきちんとしつき合いをしていれば、年賀状1枚というわずかな努力で長い友達関係を続けていけるのです。

さて、最近『ダブルハッピネス』という本を読みました。性同一性障害の話です。また、北海道旭川市にある旭山動物園に係わる本をまとめて3冊読みました。共通点は、「仲間、友達」です。本稿は、書評ではありませんので、内容には立ち入りません。皆さんが興味を持ったら、ネットで調べて読んでください。読み終わるのに、そんなに時間はかかりません。私が、「友達を作りなさい。それが大学生活の大きな目的の一つでもあります」と書いた意味を実感してもらえると思います。

ただ単に茨城大学に籍を置いただけで、卒業してしまえば関係ない、という学生が増えてきたような気がします。そうではないことを考えて欲しいのです。また、他大学の大学院に進学していく学生がいます。目的意識を持って、本当にそこでなければ自分の研究を全うできないのであれば、その大学院に進学することを全面的に応援します。でも、最終学歴に箔を付けた

いとか、入学を目指していた大学だからとか、そういう理由であれば、お奨めできません。3つの大学で学んだ後、茨城大学に勤務している私がいうのですから、間違いありません。そして、いつでも相談事を持ち込める真の友達が出来たのは、大学(学部)時代だけでした。大学院に入学してから努力を惜しんだわけではないんですよ。そういうものなんです。

さあ、リフレッシュした目で、まわりの学友を眺めてください。きっと長くつきあえる友達が見つかります。



聞いて欲しい私の意見 - 前学期を終えて思うこと -

理学部理学科1年 中田 崇 寛

前学期を終えて思ったことは「疲れた」の一言だった。大学での生活に慣れるのに精一杯で、他に手が回らず月日があっという間に過ぎ、思っていた以上に難しいことがたくさんあった。何かを特に頑張ったというわけではなく、ただ過ぎていく日々を過ごしていくだけで、内容はそれほど充実したものでもなかった。前期試験もギリギリまで全く手をつけず危ないところだった。入学式で夢に見た「大学生活」と「やる気」はどこに行ってしまったのだろうかとふと思う。大学では確かに自由な時間がたくさんあり、勉強しようと

思えばそれに時間を費やすこともできるが、ずっと遊んでいることもできる。その代わりすべてのことを自分で決めて、すべての行動に責任を持たなくてはならない。高校では、受験勉強という自分のやるべき目標がわかっているからこそ安心で、毎日が充実していた。しかし、今の自分は何を目標に勉強し、講義を受けているのか未だはっきりと詳しいことは見えず、大学には入ったら何でもでき、毎日が楽しいはずだと思っていたが、少し甘かったのかもしれない。しかしそう思う反面、忙しい日々の中で、得たものが多くあった。

履修については正直かなり不安があったが、自分の組み立てた履修を最後までやり遂げることによって達成感があり、それが自信にも繋がった。また、様々な地域や文化の人たちと出会い、お互いに意見を交換することで、幅広い物の考え方を感じられるようになった。この大学で出会った友人は大切なものであり、この先将来でもかけがいのないものになると思う。後学期では前学期の反省を生かし、せっかくの茨城大学という

与えられた場所と時間を無駄にしないで、何かひとつでも自分の目標を持ち、切磋琢磨していきたいと思う。



Voice - 教養科目の楽しみ方 -

農学部生物生産科学科3年 鈴木理恵

まず教養科目は大学を卒業したときに社会人として身についているべき最低限の教養を持つためのものだと私は捉えています。しかし教養科目は授業の選び方一つでそれが後に自分の身になるかならないか決まってしまうと思います。

私は大学に入った当初、教養科目に何の意味も感じず授業を受けていましたが、今思うと授業に興味があったかどうかによって、その後の自分に繋がっていたものといかなかったものがありました。興味がある教科は授業に対してやる気があったし、知識を身につけようと必死で、たとえ1講時で朝早い授業でも苦には感じませんでした。一方、興味は無いけど単位を取りやすそうだったので取った科目は、話がつまらないし、先生の話を理解しようとも思えず、結果的に成績も悪かったし知識が一つも身にならず、はっきり言って時間の無駄だったと思います。

結局何が言いたいかというと、教養科目によって得た知識で自分の視野を広げて欲しいと思います。一見将来役に立たない知識だろうと思ひがけない所で役に立つことがあるかもしれないですし、日常生活で役に立つ場面もあるかもしれません。何より私たちが大学を卒業して仕事に就いたとき、一方向でしか物事を捉えられない人は損をし、多面的に物事を見られる人は得をする…とまではいかないにしろ、損はしないと思います。

教養科目は自分の専門外の学問を身につけ、自分の視野を広めるチャンスだと思います。どうか皆さんは私のような失敗をしないで下さい！



教養教育古今東西

工学教育における教養教育への期待

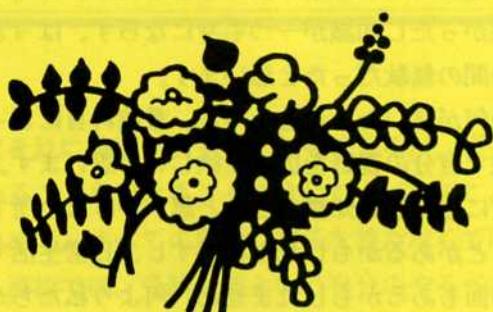
工学部 横山功一

工学部では、卒業に必要な単位124に対して、教養科目を38単位以上履修するように規定されている。数字上は、教養科目は31%の比重を占めているということになる。また、工学教育の質の保証のために工学部の多くの学科が認定を受けようとしているJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定基準では、学習・教育の量として学習保証時間を規定しており、総計1,800時間以上のうち、人文科学、社会科学等（語学教育を含む）の学習250時間以上、数学、自然科学、情報技術の学習250時間以上、および専門分野の学習900時間以上を含んでいることが求められている。人文科学、社会科学、語学教育、数学、自然科学、情報技術は、主に教養科目が対象となることを考えると、学習保証時間でみても28%が教養科目に関係しているといえる。

これらは数字で見たものであるが、さらに各学科ではどのような人材を育成しようとしているのか明確にするために、今年度から工学部履修案内に「学科の学習・教育目標と達成の基準」を掲げて、学科との関連を示し履修の参考となるようにしている。都市システム工学科の教育目標<http://www.civil.ibaraki.ac.jp/>をみてみると、「1-i)広い視野と柔軟な思考：安全・環境・生活質向上をキーワードとする土木工学領域に対する広い視野と柔軟でバランスよいシステム思考を身に付ける。1-ii)地域・文化・市民社会への素養：それぞれの地域における固有の文化、社会とその規律の歴史的発達、地域や人々の相互関係や相互依存に対して理解し、社会に奉仕しようとする意欲を持ち、社会人にふさわしい幅広い知識と教養を身に付ける。1-iii)環境観：環境観を育み、持続可能な発展を支える工学技術に必要な知識と考え方を身につける。」などが含まれており、これらに対しては専門科目ばかりでなく、教養科目の履修により達成される項目であることが理

解できよう。

このように工学教育における教養科目に対する期待は大きいものがある。このような観点で効果的に進めるには教養教育の運営責任組織である大学教育センターや教養教育担当教員と工学部とで同じ認識を持って、しっかりした連携体制を確立することが大切になる。振り返ってみると、この点が弱かったように思われる。連携体制が機能することにより、教養科目の授業の目標設定とその実施、達成度評価などについて、専門科目との協調が可能となる。そのような一環として、工学部での教育点検やFDに工学部以外の教養教育担当者に参加してもらうことも理解を深めると言う点では効果的であろう。また、工学部では、「国際化社会で活躍できるような技術者」を養成することとしており、総合英語への期待は大きいものがあるが、工学部で開講している専門英語とのつながりを改善することも連携による効果を高めるための取り組みの一つと考えられる。



発行日	平成18年10月
発行者	茨城大学 大学教育センター 水戸市文京2-1-1 029(228)8416(学務課教養教育係)